

第2回交流部会（9/21） 議事録要旨

大規模なコンベンション施設が必要だとは思わない。どんな観光を目指すのかで変わる。人を受け入れることで観光の意識が変わり、地域の良さ・宝物を再認識することが大切。例えば、空気、水、食べ物、農業、畑といった地域の良さを情報発信すべきである。

帯広で2・3時間の滞在時間を楽しめるような観光スポットがほしい。

WRCの開催時には、地元ホテルに客室数の提供依頼が間接的に市からあるが、市の指定する大会に協力するホテルには固定資産の免除などの支援制度があれば良い。（十勝川温泉では外国人政府登録ホテルに適用している）

帯広は、北海道らしい風景・農村景観（防風林）や愛国・幸福を魅力的なものとするべきではないか。

帯広は、観光産業の振興に積極的に取り組む街とするのか。魅力づくりが大切。観光地として十勝・帯広をどう作り上げていくのか。外に向けて情報発信の仕方を検討すべきである。

先に施設などの「ハード」があるのではなく、（もともと）地元の人を迎えられるもの（心）があって、はじめて客を迎えられる。まつり・イベントがあって、それを見に来る人がいる。

市民が十勝の良さを知るツアーなども、実施してみてもどうか。

市民との協働により沿道に花を植える事業を実施したり、市と管内町村と連携して行動することが大事。また、開発局が推進しているシーニックバイウェイ（地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策です）に取り組んでみてどうか。管内では、幕別の忠類と土幌（ヌプカの里）でシーニックカフェに取り組んでいる。

本物でなければ人は呼べない。施設だけでは駄目である。例えば、街中に花や緑を取り入れるとか、市民のためのイベントを開催し、魅力的な人を集め、おいしい物を作り、地元の人で食べる。そこに周りから人が集まってくるような仕掛けが必要である。

さんの意見に大賛成である。秋田の竿灯（かんとう）まつりや徳島の阿波踊りなど参加することが楽しいまつりや周りの人がすべて盛り上がるようなものにしないといけない。イベントは地元の人が盛り上げ、伝えていける、自慢や誇りがないと駄目である。平原まつりやWRCは、市民に対しPRされていない。ホスピタリティも発揮されていない。

まつり・イベントは市民のもの、市民のためのものでなければいけない。

将来を考えると、地域の観光資源は景観、食べ物、環境が帯広の売りになる。

WRC は市民との交流が少ない。

不公平感のある宣伝の方が効果ある。サービス立国宣言をし、ホスピタリティに磨きをかけるとか、地元のホテルに地元の食材を使った朝食を売りにするといった試みをしてみてはどうか。

食べ物も、なぜ美味しいのかきちんと説明できないと駄目である。旬の美味しいものを四季ごとにホテルやレストランで提供することが必要ではないか。

例：アスパラ（6月）サケ（10月）

帯広を観光地と思ったことはない。WRC や三大まつりは知らない。歓迎ムードを市民とともに高めると良い。季節ごとにお勧めの観光スポットを紹介すると良い。

地域を変えるのは「若者」、「そよ者」、「馬鹿者」という言葉がある。新しいものを作るのは難しい。今あるものを組み合わせる魅力を作ることが大切。管内でのイベントやツアーの交流を考えてみてはどうか。

空き店舗などを利用し、北の屋台のような地元の食材を使った食のスポットを多く作ってみてはどうか。

十勝の売りは食。菓子は有名だが、旬の食材の仕入れルートを農家・農協の協力を得て確立する必要がある。

半日観光の拠点づくりが必要。

行政が、地場の食材の流通経路の橋渡し役、最初のきっかけづくりを担うべきである。地産地消は、コストが高くつくが宣伝効果がある。

観光資源は風景＋ で、日高山脈の夕日を見ながら食事という具合に・・・

食べ物と風景で魅力作りをすべきである。十勝の風景をバックに朝日を眺めさせ、感動させる。

じゃらんランキングで帯広を見ると、期待するのは食べ物である。豚丼が観光客のバロメーターであるが、もっと特化してよいのではないか。他に札内川の清流水。

畑で収穫作業後、様々な方法で料理するといったツアーを体験させることが、

魅力につながる。

農家で女性向けの料理体験ツアーを実施してみてもどうか。また、市民にも体験ツアーがあってもよい。

農業の体験観光ツアーを仕掛けると良いのではないか。コンバイン体験とか。じゃがいもとチーズをチーズフォンデュにて食べさせる。

地元の食材を使ったおいしい食べ方を提案することが必要である。

「健康」、「ダイエット」、「癒し」が食のキーワード、意外な場所（小麦畑のなかとか）で食べさせることが重要である。

健康食のような郷土料理を開発し普及してみてもどうか。

十勝でなければ出来ない観光を目指す。菓子や豚丼のPR作戦を実施してはどうか。

ばんえい十勝を観光資源として活かすべきである。

以 上